

東京大学史料編纂所所蔵島津家文書の情報化

島津家文書の概要 山本博文：東京大学史料編纂所
島津家文書マイクロフィルム集成・島津家文書
目録データベースの作成 石上英一：東京大学史料編纂所

島津家文書の概要

山本 博文：東京大学史料編纂所

1. 島津家文書の概要

島津家文書は、旧薩摩藩主島津家重代相伝の文書で、東京大学史料編纂所(以下、本所と略称)に残る「物品管理通知書」によれば、昭和三十二年十二月二十日に本所が島津鑑康氏から購入したものである。総点数は一万七千点余、その他島津家本と称する写本類約六千五百点、及び薩摩藩の史官伊地知季安・季通父子の編纂した『薩藩旧記雑録』前編・後編・追録・付録計三百六十二冊がある。時期は平安時代から幕末維新时期におよび、わが国武家文書の白眉といわれる。

島津家文書のうち黒漆塗箱に収納された文書は、一九九七年に国の重要文化財に指定された。内訳は、手鑑七帖、卷子二百三十八巻で、文書総数は五五七八通である(別表1参照)。内容は、源頼朝下文を含む始祖島津忠久以来の歴代の中世文書と十五代貴久以来本宗家を継いだ伊作島津氏の中・近世文書を中心とする。これらの文書の内、手鑑仕立てのものは、島津家にとっての最重要文書である。『歴代亀鑑』二帖は、源頼朝・足利尊氏・織田信長らの文書、『国統新亀鑑』一帖は、徳川家康書状および御内書、同秀忠・家光の御内書の一部、『宝鑑』二帖は、関東下知状・鎮西下知状などの鎌倉幕府関係文書、足利尊氏・同直義らの御教書、室町幕府奉行人奉書などの鎌倉・室町時代の重要文書、『手鑑』二帖は、近衛前久ら近衛家よりの書状類を収めている。

その他は、鎌倉期・室町期の文書も含めて卷子仕立てにされている。量的に大部分を占めるのは、戦国期以降の近世島津氏に関わる文書で、薩摩藩第二代藩主島津光久の文書までが卷子仕立てにされ、『御文書』と外題が付されている。以上の文書は、受け入れ当時、計十九箱の黒漆塗の箱に収められていた。

それ以後の文書は白木箱・大箱・中箱・小箱・長持などに収められ、原本の形がよく保存されている(別表2参照)。また『島津家世録正統系図』などの系図や国絵図なども伝存している。さらに、江戸時代に島津家に入った町田・樺山・比志島・二階堂など家臣諸家の中・近世文書、台明寺・福昌寺など寺院文書なども含んでいる。

東京大学史料編纂所では、『大日本古文書』のシリーズで「家わけ第十六 島津家文書」として『歴代亀鑑』『国統新亀鑑』『宝鑑』などの手鑑、及び『御文書』の一部を刊行している。

島津家本は、明治二十一年七月、宮内大臣より編纂を命じられた『島津家国事鞅掌史料』及びこれを編纂するために蒐集・作成した写本・刊本類を中心に、その後の島津家史編纂所で蒐集・作成された写本等も納めている。本所では、伝来の違いから島津家文書とは別置している。

2 島津家文書伝存の事情

島津家文書は、藩政時代には非常時持ち出し可能なように鹿児島城本丸御番所に置かれていたが、明治四年廃藩置県後、鹿児島城三の丸内御廐の裏手「岩崎六ヶ所御蔵」に収納された(五味克夫「薩藩史料伝存の事情と事例」『鹿大史学』第二十七号)。藩政史料については、明治五年夏、大山綱良が鹿児島県令の時、「旧習が脱けぬと云う所から、藩庁の家老座・大監察局・其他公用帳簿類、土蔵に詰めて有りましたのも、悉く綱良が指揮で焼き棄て」られた。また江戸藩邸の帳簿類も、慶応三年十二月二十五日、庄内藩ら幕府側諸藩が三田の薩摩藩邸を焼き打ちした時に全焼している(「市木四郎君講演」『史談会速記録』第三輯)。

明治十年西南戦争の際、西郷隆盛ら私学校党が東上して留守の鹿児島に征討参軍川村純義率いる政府軍の軍艦十二艘が入港し、兵員を上陸させ鹿児島城下各地に哨兵線を張った(四月二十七日)。肥後にあった西郷軍は、急遽兵を分かちて鹿児島に馳せ戻らせ、要害の地に陣を張った。御廐地域は政府軍の占領下にあり、島津家歴代の文書を保管してあった岩崎六ヶ所御蔵は、御廐の裏手であったから、まさに戦地の中央に位置した。

島津家文書の焼失を恐れた島津家家令東郷重持は、五月三日、田ノ浦に置かれた政府軍本営に行き、川村純義に面接して、島津家文書転送の許可を願った。元薩摩藩士の川村はこれを了承したが、翌日未明には西郷軍への攻撃を敢行する予定となっており、御廐政府軍陣の東門の番兵は門を開くことを拒絶した。東郷は、東門より北門へ移ったが、ここでも同様に拒絶され、「退カスンバ軍法ニ処シテ汝ヲ斬ラン」と恫喝される。東郷は、「斬ルベケレバ斬ラレヨ、余ハ決シテ身命ヲ惜シム者ニアラス、島津家ノ文書ヲ惜シム者ナリ、故ニ主命ヲ奉シ之ヲ全フセス、空シク帰りテ何ノ面目アリテ再ヒ復命センヤ、余ハ島津家ノ文書ト共ニ死セハ遺憾ナシ(後略)」と死を賭けてその場に留まり、ついに番兵も隊長に取り次ぎ、壘内に入ることを許され、文書の搬出を認められた。以下、その時の記録(「磯島津家日記」明治十年五月三日条『鹿児島県史料 西南戦争』第三巻)である。

東郷大ニ悦ヒ謝シテ乃六ヶ所御蔵ヲ開扉シ、御文書箱惣数七十九個ヲ出ス、官兵剣ヲ抜テ箱ヲ破リ中ヲ改ム、東郷モ故サラニ進出シテ一、二個ヲ打破リテ正物ナルヲ示ス、検査ノ官兵最可シト曰テ引渡ス、時二庁下到处既に兵線ヲ張り道梗テ通セス御文書ヲ御邸ニ致スコト能ハス、故ニ東郷ヲ始メ同列凡ソ五拾名計リ各自担荷シテ竊ニ市下上行屋海岸桐野孫太郎宅ニ護送シ夫ヨリ一船ヲ傭テ積載シ、之ヲ桜島ヘ回漕ス、高島及ヒ其他ノ人員警衛渡海ス、東郷八直ニ帰邸シテ復命ス、是御家無ニ至重ノ御文書及御系譜無欠完全タルコトヲ得ル所以ノ事実ニシテ亦夕県下兵乱中ノ一大苦難事ナリ、

この時存在した「御文書箱惣数」は七十九個、東郷以下五十名ばかりが各自担いで上行屋海岸の桐野孫太郎宅に搬出し、船を雇って桜島へ回漕した。桜島には、同日、旧主島津久光・忠義父子が避難していた。東郷は、この七十九個を搬出したことをもって「御家無ニ至重ノ御文書及御系譜無欠完全タルコトヲ得ル」と誇っているから、明治期に伝存していた島津家文書の中核部分はここで運び出されたと考えてよい。その後、明治二十三年頃東京袖ヶ崎邸に移送され、一部は鹿児島の磯邸に残された。

本所に受け入れた時の文書箱総数は九十一、この時搬出された島津家文書がほぼ現在本所にある島津家文書にあたると思われる。十二箱という箱数のズレについては不明であるが、少なくとも「御家無ニ至重ノ御文書及御系譜」がほぼ完璧に残され、本所に入っていると思われる。なお、箱そのものについてはほぼ保存されているが、大破しているものもあり、すでに箱が存在しない番号だけのものもある。

別表 東京大学史料編纂所所蔵島津家文書略目録

1 島津家文書略目録(成巻分)

種別	番 号	内 容	形態	数量
黒漆塗 特二番箱	1 1	歴代亀鑑 元暦2～康永3	帖	54
	1 2	歴代亀鑑 貞和4～天正15	帖	54
	1 3	国統新亀鑑 慶長4～寛永14	帖	33
	1 4	御讓状置文	巻	22
	1 5	御外祖御讓状	巻	8
	1 6	薩州日州岡田帳 建久8	巻	1
	1 7	台明寺文書 建仁2～慶長6	巻	11
	1 8	御文書古目録	巻	5
	1 9	台明寺文書 応保2～文和3	巻	16
	1 10	頼朝公御教書 文治5	巻	1
	1 11	頼朝卿教書之句解 薩摩守源綱貴(島津)	冊	1
黒漆塗 第一番箱	2 1	宝鑑 其一 弘安8～応安8	帖	50
	2 2	宝鑑 其二 建武4～慶長3	帖	54
	2 3	御文書 有忠宗裏判 一之巻	巻	25
	2 4	御文書 有今川伊与入道了俊裏判 二之巻	巻	63
	2 5	御文書 有右兵衛佐満頼裏判 三之巻	巻	63
	2 6	御文書 五十二通 四之巻	巻	52
	2 7	御文書 二拾九通 五之巻	巻	29
	2 8	御文書 三拾通 六之巻	巻	30
	2 9	御文書 伊作家 巻一	巻	31
	2 10	御文書 伊作家 巻二	巻	21
	2 11	御文書 伊作家 巻三	巻	21
	2 12	御文書 伊作家 巻四	巻	41
	2 13	御文書 師久公一流	巻	17
	2 14	御口宣宣旨之類	巻	5
	2 15	御口宣宣旨之類	巻	25
	2 16	御文書 義久	巻	34
	2 17	御文書 義弘 五十二通之内	巻	23
	2 18	御文書 義弘公久保公朝鮮御在陣	巻	26
	2 19	御文書 家久公朝鮮御在陣	巻	9
	2 20	御朱印御感書 高麗唐島御戦功二付	巻	5
	2 21	御文書 摂州播州之内御知行御拜領	巻	5
	2 22	御文書 御檢地後御知行御拜領 文禄4	巻	2
	2 23	御文書 関ヶ原御合戦二付 壹	巻	21
	2 24	御文書 関ヶ原御合戦二付 弐	巻	24
	2 25	御文書 貴久公義久公	巻	17
	2 26	御文書 日新公御以来	巻	17
	2 27	福昌寺文書 十三通 写	巻	14
	2 28	薩摩伊作庄内日置北郷領家地頭下地中分絵図	軸	1
黒漆塗 第三番箱	3 1	御文書 義久公 巻一	巻	29
	3 2	御文書 義弘公家久公 巻二	巻	36
	3 3	御文書 家久公 巻三	巻	38
	3 4	御文書 家久公 巻四	巻	40
	3 5	御文書 家久公 巻五	巻	40
	3 6	御文書 光久公 巻六	巻	42
	3 7	御文書 光久公 巻七	巻	45
	3 8	御文書 光久公 巻八	巻	48
	3 9	御文書 伊作家	巻	19

	3	10	御文書 忠良公	卷	6
	3	11	御文書 諸公子	卷	6
	3	12	御文書 忠久公他 卷一	卷	44
	3	13	御文書 義久公 卷二	卷	34
	3	14	御文書 義弘公 卷三	卷	27
	3	15	御文書 家久公 卷四	卷	32
	3	16	御文書 家久公 卷五	卷	41
	3	17	御文書 光久公 卷六	卷	43
	3	18	御連歌類 貴久公他	卷	8
	3	19	御文書 義弘公家久公	卷	7
	3	20	御文書 手鏡一	帖	60
	3	21	御文書 手鏡二	帖	56
黒漆塗 第二番箱	4	1	御文書 日新公	卷	10
	4	2	御文書 義弘公	卷	15
	4	3	御文書 義弘公	卷	1
	4	4	文禄御検地御条書	卷	8
	4	5	御文書 義弘公 卷一	卷	7
	4	6	御文書 義弘公 卷二	卷	19
	4	7	御文書 義弘公 卷三	卷	19
	4	8	御文書 家久公 卷一	卷	28
	4	9	御文書 家久公 卷二	卷	35
	4	10	御文書 家久公 卷三	卷	28
	4	11	他家文書 卷一	卷	37
	4	12	他家文書 卷二	卷	45
	4	13	御文書 明他	卷	10
	4	14	御文書 勝久公他 卷一	卷	62
	4	15	御文書 義久公義弘公 卷二	卷	49
	4	16	御文書 義弘公一 卷三	卷	42
	4	17	御文書 義弘公二 卷四	卷	45
	4	18	御文書 義弘公三 卷五	卷	51
	4	19	御文書 家久公一 卷六	卷	22
	4	20	御文書 家久公二 卷七	卷	22
	4	21	御文書 家久公三 卷八	卷	24
	4	22	御文書 家久公四 卷九	卷	21
	4	23	御文書 家久公六 卷十	卷	25
	4	24	御文書 家久公六 卷十一	卷	24
	4	25	御文書 家久公七 卷十二	卷	24
	4	26	御文書 家久公八 卷十三	卷	24
黒漆塗 第十番箱	5	1	御文書 家久公九 卷十四	卷	23
	5	2	御文書 家久公十 卷十五	卷	24
	5	3	御文書 家久公十一 卷十六	卷	23
	5	4	御文書 家久公十二 卷十七	卷	22
	5	5	御文書 家久公十三 卷十八	卷	24
	5	6	御文書 家久公十四 卷十九	卷	23
	5	7	御文書 家久公十五 卷二十	卷	19
	5	8	御文書 家久公十六 卷二十一	卷	24
	5	9	御文書 家久公十七 卷二十二	卷	24
	5	10	御文書 家久公十八 卷二十三	卷	24
	5	11	御文書 家久公十九 卷二十四	卷	23
	5	12	御文書 家久公二十 卷二十五	卷	24
黒漆塗 第十一番箱	6	1	御文書 家久公二十一 卷二十六	卷	22
	6	2	御文書 家久公二十二 卷二十七	卷	24
	6	3	御文書 家久公二十三 卷二十八	卷	24

	6	4	御文書 家久公二十四 卷二十九	卷	25
	6	5	御文書 家久公二十五 卷三十	卷	22
	6	6	御文書 家久公二十六 卷三十一	卷	22
	6	7	御文書 家久公二十七 卷三十二	卷	21
	6	8	御文書 家久公二十八 卷三十三	卷	21
	6	9	御文書 家久公二十九 卷三十四	卷	23
	6	10	御文書 家久公三十 卷三十五	卷	24
	6	11	御文書 家久公三十一 卷三十六	卷	30
	6	12	御文書 家久公三十二 卷三十七	卷	33
黒漆塗 第十二番箱	7	1	御文書 光久公一 卷三十八	卷	22
	7	2	御文書 光久公二 卷三十九	卷	18
	7	3	御文書 光久公三 卷四十	卷	25
	7	4	御文書 光久公四 卷四十一	卷	25
	7	5	御文書 光久公五 卷四十二	卷	22
	7	6	御文書 光久公六 卷四十三	卷	25
	7	7	御文書 光久公七 卷四十四	卷	21
	7	8	御文書 光久公八 卷四十五	卷	18
	7	9	御文書 光久公九 卷四十六	卷	19
	7	10	御文書 光久公十 卷四十七	卷	22
	7	11	御文書 光久公十一 卷四十八	卷	21
	7	12	御文書 光久公十二 卷四十九	卷	21
黒漆塗 第十三番箱	8	1	御文書 光久公十三 卷五十	卷	22
	8	2	御文書 光久公十四 卷五十一	卷	21
	8	3	御文書 光久公十五 卷五十二	卷	23
	8	4	御文書 光久公十六 卷五十三	卷	22
	8	5	御文書 光久公十七 卷五十四	卷	24
	8	6	御文書 光久公十八 卷五十五	卷	22
	8	7	御文書 光久公十九 卷五十六	卷	21
	8	8	御文書 光久公二十 卷五十七	卷	22
	8	9	御文書 光久公二十一 卷五十八	卷	29
	8	10	御文書 光久公二十二 卷五十九	卷	18
	8	11	御文書 光久公二十三 卷六十	卷	30
	8	12	御文書 光久公二十四 卷六十一	卷	27
黒漆塗 第十四番箱	9	1	御文書 光久公二十五 卷六十二	卷	21
	9	2	御文書 光久公二十六 卷六十三	卷	26
	9	3	御文書 光久公二十七 卷六十四	卷	27
	9	4	御文書 光久公二十八 卷六十五	卷	22
	9	5	御文書 光久公二十九 卷六十六	卷	21
	9	6	御文書 光久公三十 卷六十七	卷	20
	9	7	御文書 光久公三十一 卷六十八	卷	27
	9	8	御文書 光久公三十二 卷六十九	卷	21
	9	9	御文書 光久公三十三 卷七十	卷	24
黒漆塗 第十六番箱	10	1	御文書 光久公三十四 卷七十一	卷	23
	10	2	御文書 光久公三十五 卷七十二	卷	23
	10	3	御文書 光久公三十六 卷七十三	卷	25
	10	4	御文書 光久公三十七 卷七十四	卷	21
	10	5	御文書 光久公三十八 卷七十五	卷	22
	10	6	御文書 光久公三十九 卷七十六	卷	30
	10	7	御文書 光久公四十 卷七十七	卷	25
	10	8	御文書 光久公四十一 卷七十八	卷	19
	10	9	御文書 光久公四十二 卷七十九	卷	25
黒漆塗 第十五番箱	11	1	御文書 忠宗公他 卷一	卷	17
	11	2	御文書 元久公 卷二	卷	2

	11	3	御文書	義久公一	卷三	卷	29
	11	4	御文書	義久公二	卷四	卷	21
	11	5	御文書	義久公三	卷五	卷	17
	11	6	御文書	義弘公一	卷六	卷	21
	11	7	御文書	義弘公二	卷七	卷	10
	11	8	御文書	義弘公三	卷八	卷	17
	11	9	御文書	義弘公四	卷九	卷	14
	11	10	御文書	義弘公五	卷十	卷	10
	11	11	御文書	義弘公六	卷十一	卷	8
	11	12	御文書	義弘公七	卷十二	卷	22
黒漆塗 第十七番箱	12	1	御文書	家久公一	卷十三	卷	21
	12	2	御文書	家久公二	卷十四	卷	22
	12	3	御文書	家久公三	卷十五	卷	15
	12	4	御文書	家久公四	卷十六	卷	23
	12	5	御文書	家久公五	卷十七	卷	17
	12	6	御文書	家久公六	卷十八	卷	23
	12	7	御文書	家久公七	卷十九	卷	21
	12	8	御文書	家久公八	卷二十	卷	19
	12	9	御文書	家久公九	卷二十一	卷	12
	12	10	御文書	家久公十	卷二十二	卷	21
	12	11	御文書	家久公十一	卷二十三	卷	16
	12	12	御文書	家久公十二	卷二十四	卷	16
黒漆塗 第十八番箱	13	1	御文書	家久公十三	卷二十五	卷	15
	13	2	御文書	家久公十四	卷二十六	卷	16
	13	3	御文書	家久公十五	卷二十七	卷	20
	13	4	御文書	家久公十六	卷二十八	卷	15
	13	5	御文書	家久公十七	卷二十九	卷	16
	13	6	御文書	家久公十八	卷三十	卷	15
	13	7	御文書	家久公十九	卷三十一	卷	27
黒漆塗 第十九番箱	14	1	御文書	光久公一	卷三十二上	卷	11
	14	2	御文書	光久公一	卷三十二下	卷	33
	14	3	御文書	光久公二	卷三十三	卷	12
	14	4	御文書	光久公三	卷三十四	卷	16
	14	5	御文書	光久公四	卷三十五	卷	15
	14	6	御文書	光久公五	卷三十六	卷	16
	14	7	御文書	光久公六	卷三十七	卷	9
	14	8	御文書	光久公七	卷三十八	卷	12
	14	9	御文書	光久公八	卷三十九	卷	20
黒漆塗 第二十番箱	15	1	御文書	光久公九	卷四十	卷	19
	15	2	御文書	光久公十	卷四十一	卷	12
	15	3	御文書	光久公十一	卷四十二	卷	17
	15	4	御文書	光久公十二	卷四十三	卷	17
	15	5	御文書	光久公十三	卷四十四	卷	17
	15	6	御文書	光久公十四	卷四十五	卷	15
	15	7	御文書	光久公十五	卷四十六	卷	15
	15	8	御文書	光久公十六	卷四十七	卷	14
	15	9	御文書	光久公十七	卷四十八	卷	19
黒漆塗第二十一番箱	16	1	御文書	光久公十八	卷四十九	卷	16
	16	2	御文書	光久公十九	卷五十	卷	18
	16	3	御文書	光久公二十	卷五十一	卷	17
	16	4	御文書	光久公二十一	卷五十二	卷	19
	16	5	御文書	光久公二十二	卷五十三	卷	15
	16	6	御文書	光久公二十三	卷五十四	卷	19

	16	7	御文書 光久公二十四 卷五十五	卷	22
	16	8	御犬追物手組 卷一	卷	26
	16	9	御犬追物手組 卷二	卷	20
黒漆塗第二十二番箱	17	1	御文書 忠久公他 卷一	卷	28
	17	2	御文書 義久公一 卷二	卷	27
	17	3	御文書 義久公二 卷三	卷	29
	17	4	御文書 義久公三 卷四上	卷	32
	17	5	御文書 義久公義弘公 卷四下	卷	2
	17	6	御文書 義久公四 卷五	卷	23
	17	7	御文書 義久公五 卷六	卷	24
	17	8	御文書 義久公六 卷七	卷	21
	17	9	御文書 義久公七 卷八	卷	19
	17	10	御文書 義久公八 卷九	卷	18
	17	11	御文書 義久公九 卷十	卷	25
	17	12	御文書 義弘公一 卷十一	卷	23
	17	13	御文書 義弘公二 卷十二	卷	24
黒漆塗第二十三番箱	18	1	御文書 義弘公三 卷十三	卷	11
	18	2	御文書 義弘公四 卷十四	卷	21
	18	3	御文書 義弘公五 卷十五	卷	20
	18	4	御文書 家久公一 卷十六	卷	25
	18	5	御文書 家久公二 卷十七	卷	28
	18	6	御文書 家久公三 卷十八	卷	17
	18	7	御文書 家久公四 卷十九	卷	13
	18	8	御文書 家久公五 卷二十	卷	30
	18	9	御文書 光久公一 卷二十一	卷	23
	18	10	御文書 光久公二 卷二十二	卷	18
	18	11	御文書 光久公三 卷二十三	卷	19
	18	12	御文書御添書	卷	19
黒漆塗第四十八番箱	19	1	御文書 忠国公他 一	卷	31
	19	2	御文書 義久公 二	卷	33
	19	3	御文書 義久公 三	卷	46
	19	4	御文書 義久公 四	卷	40
	19	5	御文書 義久公 五	卷	34
	19	6	御文書 義久公 六	卷	32
	19	7	御文書 義久公 七	卷	32
	19	8	御文書 義久公 八	卷	33
	19	9	御文書 義久公 九	卷	37
	19	10	御文書 義久公 十	卷	32
	19	11	御文書 久保公忠恒公 十一	卷	25
	19	12	御文書 家久公 十二	卷	25
	19	13	御詠歌 家久公	卷	27
	19	14	御詠歌 家久公	卷	27
	19	15	御文書上包紙五	包	5

2 島津家文書目録(未成巻等分)

目録	種別	番	数量	内容
1	白木一番箱	20	264	享保4年～、家老申渡書、琉球西平親方起請文、島津吉貴官途改名一件、島津繼豊家督、島津吉貴隠居、江戸幕府触書、清国服装等吟味一件、江戸幕府評定所達書、江戸幕府参勤供数触書
1	白木二番箱	21	276	享保13年～、家老申渡書、知行目録、島津繼豊吉書、大目付書付写

1	白木三番箱	22	88	延享3年～、島津宗信献上伺書、島津繼豊・宗信明細書写、島津繼豊讓状写、島津久甫申渡書、島津重年申渡書、島津重年明細書
2	白木四番箱	23	126	寛延2年～、島津繼豊讓状、徳川吉宗遺物拝領一件、徳川家重判物写、幕府老中達書・大目付廻状、中山王書状、御代替一件
2	白木五番箱	24	183	宝暦12年～、島津重豪吉書、徳川家重薨去一件、公儀御尋二付返答書控、島津淡路守新家取立一件、島津重豪願書、安永4年犬追物稽古手組、徳川家治薨去一件
2	白木六番箱	25	155	天明3年～、江戸記録奉行入付覚、島津重豪・斉宣明細書、島津重豪子女系譜問合書一卷、浦添王子起請文、島津斉宣進物目録
2	白木七番箱	26	104	天明7年～、譜久山朝紀起請文、島津斉興元服一件、幕府老中奉書、島津斉宣・斉興明細書写、中山王起請文、
2	白木八番箱	27	109	文化11年～、勝手向不如意二付願書差出一件、島津重豪達書、神事犬追物一件、島津重豪介助辞退願出一件、当家軍術一卷書
2	白木九番箱	28	117	文政7年～、島津斉興伺書、島津重豪・斉宣・斉興子女調一件、島津斉彬誓詞差出一件、武家諸法度頒布一件、島津斉興達書、島津斉興昇進一件
2	白木十番箱	29	224	天保12年～、島津家家老連署申渡書、幕府老中連署奉書、琉球王子・親方起請文、安政6年島津忠義代替誓詞差出一件
3	白木十一番箱	30	100	安政6年～、島津久光後見願立一件、大政奉還勅書到来一件、王政復古一件、島津忠義東行一件、朝廷御沙汰書
3	白木十二番箱	31	49	慶応4年～、明治天皇親征一件、禁門の変出兵一件、島津久光官位叙任諸控、島津忠義薨去二付一件
3	白木十三番箱	32	56	慶応3年明治天皇詔書、太政官達書、爵位授与状
3	白木四十五番箱	33	382	琉球国王書状、徳川吉宗下賜目録、島津繼豊伺書、幕府老中達書、中山王宛島津吉貴書状、島津重年伺書
3	系図・家譜旧番所五番箱	34	13	島津氏系図
3	系図・家譜二十四番箱	35	114	新編島津氏世録正統系図(第20代家久まで、義弘・久保も代数に数える)
3	系図・家譜二十五番箱	36	79	続編島津氏世録正統系図(第18代家久)
3	系図・家譜二十七番上箱	37	86	続編島津氏世録正統系図(光久・綱久・綱貴)
3	系図・家譜二十七番中箱	38	131	続編島津氏世録正統系図(吉貴)
3	系図・家譜二十七番下箱	39	138	続編島津氏世録正統系図(繼豊・宗信・重年)
3	系図・家譜六十五番箱	40	131	続編島津氏世録正統系図(重豪)
3	系図・家譜六十七番箱	41	118	続編島津氏世録正統系図(斉宣・斉興)
3	系図・家譜二十六番箱	42	96	新編島津氏世録支流系図(伊集院・新納・樺山・川上・北郷・若狭島津・越前島津ほか)
4	大箱旧番所三番大箱	43	59	叙位任官関係文書
4	大箱旧番所四番大箱	44	66	叙位任官関係文書
4	中箱四番下箱	45	125	中世文書写・天正年中日記・人衆賦帳・伊集院忠真兄弟罪科条条・徳川幕府法度写
4	中箱六十七番箱	46	107	諸事諸記録集・諸文集
4	小箱六番箱	47	265	島津吉貴養女婚礼一件・西丸女中連署奉書・琉球使節参府一件・島津家家老連署奉書
5	小箱六番箱	47	331	島津家家臣名字改一件
5	小箱十番箱	48	132	兵法書
5	小箱二十九番箱	49	75	犬追物記
5	小箱三十三番箱	50	279	元禄国絵図関係
5	小箱四十九番箱	51	106	近衛前久等文書
5	小箱五十七番箱	52	40	平田氏蔵書・島津斉宣等子女書立
5	小箱五十九番箱	53	52	東鑑52冊
5	小箱六十番箱	54	40	太平記40冊
5	小箱六十二番箱	55	69	書札礼・御成記

6	小箱六十六番箱	56	3	庭訓往来
6	小箱八十八番箱	57	40	神社調
6	小箱麻力バー	58	74	犬追物
6	小箱棚積本	59	57	島津斉興日帳・犬追物
6	小箱白布包本	60	270	境相論・天保国絵図
6	小箱茶風呂敷包本	61	33	馬術・犬追物
6	小箱欠番二号	62	94	元禄・天保国絵図
6	小箱欠番三号	63	8	文書目録
6	小箱二番箱(慶明雑録等目録)	64	35	慶明雑録
6	小箱朱書四番箱	65	36	古事類苑・九州治乱記・薩州落穂集
6	小箱高辻帳箱	66	12	天保郡村高辻帳
6	小箱造宮図志箱	67	24	安政御造宮図志
6	小箱兵法伝書箱	68	295	当家軍術秘法
6	小箱墓誌擢箱	69	114	島津家大円寺墓誌
7	長持四番上	70	360	島津家歴代叙位任官関係文書、島津家臣書継起請文、徳川将軍島津邸御成一件記録、徳川綱吉側用人・老中奉書、近衛・島津両家由緒、島原一揆絵図
7	長持五番	71	131	島津斉宣誌文集、法華堂文書写、島津重豪吹上御庭拜見一件
7	長持七番	72	318	茶道書、花押印、島津重豪遺品、用学書、島津綱貴袖判達書、茂姫近衛家養女取組一件
7	長持九番上	73	419	宝永7年琉球両使参府一件、島津氏重書案、馬術書、陽和院和歌詠草、島津綱貴叙位任官関係文書、花押印、鹿児島城絵図、島津家分限帳、国目付監察に付諸事控、薩摩藩内道中記、島津斉宣少将任官一件
8	長持九番中	74	240	島津斉宣叙任一件、甲陽軍鑑、弓術書、鉄砲伝書、高麗流馬術書、平家物語写本、徳川家重一字書出、烏帽子
8	長持九番下	75	79	島津吉貴・継豊・宗信・重豪任官一件、
8	長持三十五番	76	223	薩摩天保国絵図部分図、薩摩・日向・琉球国絵図、薩摩鹿児島郡6ヶ村絵図、御絵図改に付諸郷絵図、天保国絵図関係書類
8	長持三十六番	77	341	古書、砲術書、野久尾家文書、島津光久吉書、幕府老中達書、徳川家綱判物写
8	長持五十七番	78	323	謡本、武家故実書、武田流軍術書、兵法書
8	長持欠番一号	79	485	島津斉興所持品、那覇沖異国船表着絵図、蝦夷地一件、79-3～79-5は二階堂文書
9	長持欠番一号	79	280	79-3～79-は二階堂文書、79-6は台明寺文書
9	新長持	80	891	島津氏伝来兵法書・軍術書、免許状、書札礼、将軍御成一件献次第、故実条系、犬追物、鎗術書、徳川家斉室広大院書状、島津光久相伝軍術書、神道諸法、薩摩・大隅・日向琉球郷村高帳写、天保郷帳差出に付一件、本田家由緒書類、山田民部少輔宛義久・義弘書付、島津斉宣内用留、西洋大砲絵図興
10	筆筭大筆筭	81	529	幕末オランダ・琉球関係文書、長崎関役報告書、幕末アメリカ・ロシア関係文書、篤姫由緒書、薩隅日御高総帳、漂流人・異国船、洋式大砲絵図、江戸城大奥絵図、薩摩藩芝屋敷絵図、西洋帆船構造図
10	筆筭小筆筭	82	525	御城下海岸測量縄引図、異国船その外絵図、ロシア使節艦隊絵図、ペリー応接絵図、唐風説書和解、琉球国嘆願書、明清交替の節琉球の儀御伺一件、於長崎琉球持渡品売捌御願一件、アメリカ国書に付諸大名の意見徴収一件、島津斉彬少将昇進御願一件、対馬藩異国船届出一件、琉球へ異国船来着一件、蒸気船一件、鎌倉流犬追物記録
10	他家箱六十八番比志島家文書箱	83	238	7巻
10	他家箱欠番一号樺山家文書箱	84	297	伝家亀鏡16巻(第12巻は近衛家へ)
11	他家箱上井覚兼日記箱	85	29	伊勢守心得書1冊、伊勢守日記28冊
11	他家箱川上家伝書犬追物箱	86	135	子番号1～16

11	他家箱町田家文書三号箱	87	25	8軸、5通、ほか(第一・二号箱は、尚古集成館にあり)
11	他家箱町田家文書四号箱	88	240	8巻、ほか、近世文書中心
11	他家箱町田家文書五号箱	89	232	島津氏庶流系図、年頭御規式、梅北一揆覚、古日記、町田家系図書類、書状
11	他家箱台明寺文書二番箱	90	159	5巻(長久2年～元徳3年および無年号)
11	他家箱黄色風呂敷包町田家文書	91	168	五大老連署状ほか、久倍公御事、義久公文書、斉宣公文書、斉興公文書、町田家日記

島津家文書マイクロフィルム集成・ 島津家文書目録データベースの作成

石上 英一：東京大学史料編纂所

1 従来の島津家文書の公開と利用方法

1.1 島津家文書の概要

史料編纂所所蔵島津家文書は旧薩摩藩主島津家に伝わった文書、典籍のうち東京の邸宅に保管されていたもので、1955年から1957年にかけて、島津鑑康氏から購入したものである。島津家文書(以下、総称としては「島津家文書」と表記する)は、近世・中世の文書を中心とした島津家文書(以下、島津家文書と表記する)と、幕末維新期の典籍・文書からなる「島津家本」、及び『薩藩日記雑録』などの「島津家文書」からの別置本からなる。

1.2 島津家文書の翻刻と目録

島津家文書は、『大日本古文書』島津家文書として3冊が刊行されている(1942、1953、1966年)。ここには、4番の途中まで(3番の一部、及び典籍を除く)が収録されている。『鹿児島県史料』は『薩藩日記雑録』等を収録した。

1977～1986年に山口啓二元教授らが島津家文書の整理を行い、島津家文書基本カード及び同カードから『島津家文書目録』(13冊。略目録。複本は史料編纂所図書室備え付け。鹿児島県黎明館、沖縄県立図書館史料編集室等にも複本あり)を作成した。島津家本には、『島津家文書目録』三上・下(維新史料編纂事務局。複本は史料編纂所図書室備え付け)があるが、詳細目録は作成されていない。

1.3 「島津家文書」の公開

島津家本は、購入後ただちに公開され、島津家文書は整理終了後、全面公開されたが、公開には次のような課題がある

史料数が膨大であるため、既存の目録では利用しにくい。

写真版がないものがある。特に原装のままの史料で取り扱いに注意を要するもので写真版がないものがある。写真版があっても、マイクロフィルムリーダー対応ではないので情報化に困難がある。

1.4 計画の目的と概要

島津家文書の学術利用環境構築の推進を、マルチメディア対応情報資源化によりはかる。

島津家文書の16mmマイクロフィルムライブラリを作成し、データベースとリンクさせ、コンピュータネットワークでの検索・画像表示を実現する。

2 島津家文書目録データベース

2.1 ホストマシン上でのデータベースの構築

史料編纂所のホストマシン(1997年2月よりNEC/AX7000)上のデータベースシステム(史料編纂所歴史情報処理システム:SHIPS)のサブシステムである史料目録システムにデータを入力する。

データは、ワークステーションやパーソナルコンピュータで使用できるように出力できるようにす

る。

2.2 データ形式

項目名1：ホストマシンのデータベースでのデータ項目名

項目名2：WEB サーバー上でのデータ項目名

項目名1	属性・桁数	項目名2	備考
カウンタ	9(14)	ID	史料群 CD(06)、史料 CNT(06)、枝番(02)
直前カウンタ	9(14)	-	
担当者 CD	X(02)	-	
作業 CD	X(02)	-	
作業名	N(10)	-	
史料群 CD	9(06)	-	
史料群名	N(20)	史料群名	
原蔵	N(10)	原蔵	
架番号	9(09)	-	史料編纂所架番号
冊次	9(03)	-	
丁数	9(03)	-	
架蔵 CD		架番号	
所蔵 CD	X(08)		
史料 CD	X(08)		
架番号	X(04)		
架番号	X(04)		
架番号	X(04)		
架番号	X(04)		
架番号V	X(04)		
和年号	N(04)	年月日	和年号
年号(符号・月日)	9(05)		和年号に対応する月日
年月日 CD	9(11)	西暦(4 桁)	ソート用年月日コード
M F CD1	X(5)	-	FDIP 駆動用リール ID
M F CD2	X(5)	-	FDIP 駆動用コマ CNT
文書名	N(20)	文書名	
員数	N(03)	備考	員数
形状	N(03)		形状
欠損	N(03)		欠損
端裏書	N(20)		端裏書
端書	N(32)		端書 簿冊の表紙の内容標目、文書の端や包紙に書かれた梗概
書出	N(32)	-	
書止	N(32)	-	
差出	N(32)	差出	
宛所	N(20)	宛所	
寺社名	N(10)	備考	寺社名
人名	N(32)		人名
地名	N(32)		地名
職名	N(32)		職名
件名	N(32)		件名
内容	N(32)		内容
備考 2	N(32)		備考 2
収載	N(12)		収載
分類	N(10)		収載
料紙	N(04)		料紙
封式	N(03)		料紙
紙数	N(03)		紙数
法量(縦)	9(04)		法量・縦
法量(横)	9(04)		法量・横
データ ID	9(01)	-	

2.3 データ作成

実物、写真、基本カードからワークシートを作成する。

ワークシートによる外注入力(外注データの納品前校正、外注データ納品(MT))を行う。

MTから汎用機へバッチ入力(エラーチェック(CNT二重登録、年号マスタ未登録)、ソート用年月日CD付与等のデータ整形)する。

対話校正を行う。

公開 WS用データに変換しFTPで転送する。

2.4 インターネット公開

史料編纂所 WEB サーバー(NEC/EWS4800)の Future/Happiness(平和情報サービス)に、ホストマシンより、項目併合したデータをFTP転送する。

史料編纂所ホームページ(<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp>)の SHIPS for Internet から検索できるようにする。検索には、簡易検索と、項目毎の and/or 検索ができる詳細検索がある。検索結果は、検索一覧と検索結果詳細で表示される。画面については、付図参照。

2.5 データベース構築の進行状況

ワークシート・データベース 黒漆塗箱(御文書、1-19番、約5,500点)のワークシート作成・記入事項補訂が1997年度までに終了した。データ入力は、14番まで終了した。

インターネット公開 データ校正後、順次、WEBサーバーに転送する。1997年11月現在は、黒漆塗箱4・5・6番の検索ができる。

2.6 和暦のソート用コード変換(古文書用年号変換)

目的 対話入力、バッチ入力された和暦を11桁の数値(YMD)に変換し時系列ソートに使用する。時代区分は、当該時代区分の最終年の最後部にソートされる。手入力は誤りが生じるので、システム内で、バッチ入力/分散入力時に和暦入力時に自動生成する。

古文書用年月日コードの構造 ソート用年月日コードは数字11桁で、UUUU V W XX Y ZZの6領域に分れる(編年用も同じ)。

桁数	機能	数列	年月日コード
第1~4桁	西暦年領域	UUUU	1185
第5桁	時代区分識別領域V 5 = 時代区分	0	
第6桁	年月日不明識別領域W 1 = 是歳 2 = 是歳頃 7 = 年号年中	0	
第7・8桁	月領域	XX	01
第9桁	閏月領域 5 = 閏月	Y	0
第10・11桁	日領域 ZZ 99 = 是月	01	

例： 11850001001 (治承4年正月1日)

ホストマシン端末画面における和暦年月日項の表示 年月日は「AAAA/B/CC/DD」(A:日本語、BCD:1バイト数字)から構成される。

例：治承 4 0 01 01(治承 4 年正月 1 日)

1.年月日コードとの対応は、次のごとくである。

入力文字	コード数列
-----	-----
A A A	U U U U
B 5	W
B =5	Y =5
CC	XX
DD , Y =5	ZZ
-----	-----

例：時代区分の場合は UUUU5000000

2.各領域の表記

「A A A A」：年号領域 = 年号 A A + 年 a a (a : 2 バイト数字)

- ・ 文治二年 「文治2」 (: スペース)
- ・ 応永十二年 「応永12」

・ 4 文字年号は下 2 文字で表記する

・ 年未詳、年月日未詳の場合、「A A a a」に時代区分入力

和銅 - 天応(708-781)	「奈良」
延暦 - 昌泰(782-900)	「平安前期」
延喜 - 長保(901-1003)	「平安中期」
寛弘 - 応徳(1004 - 1086)	「平安後期」
寛治 - 元暦(1087 - 1184)	「平安院政」
文治 - 承久(1185-1221)	「鎌倉前期」
貞応 - 弘安(1222-1287)	「鎌倉中期」
正応 - 元弘(1288-1333)	「鎌倉後期」
建武 - 明德(1334-1393)	「南北朝」
応永 - 嘉吉(1394-1443)	「室町前期」
文安 - 延徳(1444-1491)	「室町中期」
明応 - 永祿(1492 - 1569)	「室町後期」
元龜 - 慶長(1570-1602)	「安土桃山」
慶長8 - 延宝(1603 - 1680)	「江戸前期」
天和 - 安永(1681-1780)	「江戸中期」
天明 - 慶応(1781 - 1867)	「江戸後期」

このほか、「江戸時代」、「明治」、「大正」、「昭和」使用

「B」：年月日不明識別領域

- ・ 「A A a a」 = 実年号 B = 0 またはスペース
附年号、端裏も実年号に準じる
- ・ 「A A a a」 = 是歳 B = 1
- ・ 「A A a a」 = 年頃 B = 2
- ・ 「A A a a」 = 年号年間 B = 7
- ・ 「CC」 = 閏月 B = 5
- ・ 「A A A A」 = 時代区分 B = 0 またはスペース

「CC」：月領域

- ・ 月あり CC = 01 ~ 12

01~09 は、それぞれ「1」~「9」だけの入力でもよい

閏正月の場合：「B / CC」 = 「5 / 01」

- ・月なし CC = 00
是歳、是歳頃、年中、時代区分
- ・「A A a a」 = 時代区分かつ月日なし CC = 00 かつ DD = 00
「DD」：日領域
- ・日あり DD = 01 ~ 31
01~09 は、それぞれ「1」~「9」だけの入力でもよい
- ・日なし DD = 00
是歳、是歳頃、年中、時代区分
- ・是月 DD = 99

实例

史料の年号	ソート用コード	和年号表示
天応元年12月29日	0781 0 0 12 0 29	天応1 0 12 29
天応元年12月是月	0781 0 0 12 0 99	天応1 0 12 99
天応元年閏12月29日(仮)	0781 0 0 12 5 29	天応1 5 12 29
天応元年是歳	0781 0 1 00 0 00	天応1 1 00 00
天応元年頃	0781 0 2 00 0 00	天応1 2 00 00
天応年閏(仮)	0781 0 7 00 0 00	天応年中 7 00 00
奈良	0781 5 0 00 0 00	奈良

UUUU V W XX Y ZZ	A A a a b cc dd
------------------	-----------------

2.7 架蔵 CD

目的 国際的な文書階層管理体系に対応し、かつ研究所外の史料群も自由に扱えるように、史料群 CD はデータ管理情報として残したまま、それと並存させて架蔵コード体系を SHIPS に取入れることにした。

構造

項番	項目名	属性	対応
第1フィールド	所蔵CD	ANK × 8	
第2フィールド	史料CD	ANK × 8	
第3フィールド	架番号	ANK × 4	FONDS
第4フィールド	架番号	ANK × 4	SERIES
第5フィールド	架番号	ANK × 4	FILE
第6フィールド	架番号	ANK × 4	ITEM
第7フィールド	架番号V	ANK × 4	(SPARE)

使用法

対象となる史料所蔵機関・史料群のほとんどのコード体系に対応する。

例えば、史料編纂所所蔵島津家文書(史料群 CD は 090001)は

1	2	3	4	5	6	7	CD 階層
SIRYO	SHIMAZU	1	1	1	1	1	データ
(島津家文書黒漆塗特二番箱 歴代龜鑑第1号文書)							実物

の如く表記される。

3 島津家文書マイクロフィルム目録データベース

3.1 島津家文書マイクロフィルム目録

16 mmマイクロフィルム(ネガマスター、ネガマスターデュープ、作業用ポジ)に添付される目録を作成した。

3.2 島津家文書マイクロフィルム目録データベース

上記のデータを PC の text file に変換したもの。PC 用データベースで使用する。

項目間区切りコード :@(2 バイト、JIS = 2177) 終端コード:CR

項目名	属性・桁数備考	表示内容
整理番号	9(6)	連続番号
架番号	9(3)	架番号 I
	9(3)	架番号
	9(3)	架番号
	9(3)	架番号
タイトル項目	X(1)	タイトル項目表示フラグ
リールID	X(4)	
コマCNT(先頭)	X(4)	
年月日	N	漢字表記年月日
内容	N	

3.3 公開

『島津家文書マイクロフィルム目録』は撮影が全部終了したら刊行したい。現在までの仮目録は作成済みである。

付図 SHIPS for Internet からの島津家文書目録データベースの検索

1 SHIPS for Internet データベース選択画面

データベース選択画面

- [所蔵史料目録データベース](#)を参照する。
- [古文書目録データベース](#)を参照する。
- [古文書古記録フルテキストデータベース](#)を参照する。
- [維新史料綱要データベース](#)を参照する。
- [諸家文書データベース（島津家）](#)を参照する。
- [編年史料カード目録データベース](#)を参照する。
- [編年史料網文データベース](#)を参照する。
- [中世記録人名索引データベース](#)を参照する。
- [大日本史料索引データベース](#)を参照する。
- [大日本古文書データベース](#)を参照する。

2 簡易検索画面

諸家文書データベース（島津家）

検索したい言葉（20文字以内）をフィールドに入力し、【検索】ボタンを押して下さい。

キーワード:

検 索

キーワード通覧

検索履歴

ク リ ア

検索方法

- 【検 索】 : 検索を実行します。
- 【キーワード通覧】 : キーワード一覧を呼び出します。
検索フィールドに文字が入力されている場合、その文字を先頭としたキーワードを表示します。
- 【検索履歴】 : これまで行ってきた検索の履歴を表示します。
各検索結果をAND（論理積）、OR（論理和）、NOT（論理差）で二次検索できます。
- 【クリア】 : 検索フィールドをクリアします。
- 【詳細検索】 : 項目ごとにAND（論理積）、OR（論理和）検索ができます。

3 詳細検索画面

キーワード： and or
 史料群名： and or
 西暦コード： or ~
 和年号： or ~
 月： or ~
 日： or ~
 架番号： 1 2 3 4 5 or ~
 1 2 3 4 5
 文書名： and or
 差出： and or
 宛所： and or
 原蔵： and or

4 検索結果一覧画面

検索式：(sysfree =琉球)

検索結果：81件データが見つかりました。

No.	史料群名	架番号	丁数	年月日	文書名
1.	島津家文書	0004-0007-0017-0000-0000	101丁	慶長13年8月19日	山口直友書状
2.	島津家文書	0004-0007-0018-0000-0000	102丁	慶長14年4月1日	山口直友書状
3.	島津家文書	0004-0009-0011-0000-0000	044丁	江戸前期頃11月23日	本多正統書状
4.	島津家文書	0004-0009-0012-0000-0000	045丁	慶長13年8月19日	山口直友書状
5.	島津家文書	0004-0009-0013-0000-0000	046丁	慶長13年2月27日	山口直友書状
6.	島津家文書	0004-0009-0014-0000-0000	047丁	慶長14年4月1日	山口直友書状
7.	島津家文書	0004-0009-0015-0000-0000	048丁	慶長16年6月6日	山口直友書状
8.	島津家文書	0004-0009-0016-0000-0000	049丁	慶長14年6月26日	本多正統書状
9.	島津家文書	0004-0009-0017-0000-0000	050丁	慶長14年7月3日	福島正則書状
10.	島津家文書	0004-0009-0018-0000-0000	051丁	慶長14年7月9日	本多正信副状
11.	島津家文書	0004-0009-0019-0000-0000	052丁	慶長14年7月13日	本多正統副状
12.	島津家文書	0004-0009-0020-0000-0000	055丁	慶長14年7月13日	本多正統書状
13.	島津家文書	0004-0009-0021-0000-0000	056丁	慶長14年7月14日	山口直友書状

5 検索結果詳細画面

1/81

【ID】 090001001877
【史料群名】 島津家文書
【架番号】 0004-0007-0017-0000-0000
【丁数】 101
【年月日】 慶長13年8月19日
【西暦】 1608
【文書名】 山口直友書状
【差出】 山駿河守直友／山口直友
【宛所】 惟新／島津義弘／惟新／島津義弘
【原蔵】 島津家
【備考】
【負数】 1 通
【形状】 折紙
【人名】 本助丞／本田元親／本佐州／本多正信／上野介／本多正統／：
【件名】 琉球人／渡海
【内容】 写6171・97-2-14／写6171・97-2-14
【収載】 島津家文書2-289
【紙数】 1